

大切なお子様のために 子どもの「弱視」について知ろう

子どもの視力を守る研究を進めておられる、

桃山学院大学教授の高橋ひとみ先生に

「子どもの視力について大切なこと」をインタビューしました。

子どもは徐々に見えるようになります。はっきり見えなくても、自分からは言いません。目に異常や疾病があると「ピントを合わせる」ことができないので、ハッキリ見えません。思い当たることはありませんか? 「目を細めて見る」「集中力が無い」なども、見えにくいからこその症状であることがあります。人の視力は、ピントを合わせることによって目から脳への視神経の回路が作られます。視神経回路の形成は個人差がありますが、3歳頃には両眼視機能が、6才頃には視機能の発達

が終了します。この回路がなければ脳が認識しないから眼鏡を装着しても一定以上の視力は出ません。これを「弱視」といいます。発達が終了する6才頃までに「目の異常や疾病」を発見し、適切な処置を行うことができれば弱視は改善される可能性があります。視力検査を受ける機会がなくて、視力不良に気づかなかつたために弱視になる幼児が約2%もいます。早期発見のために、3歳児での視力検査が大切なのです。



桃山学院大学
高橋ひとみ先生



3歳児半健診はご存知ですか?

3歳になったら、視力検査!

子どもは自分から「見えていない」とは言いません。小学校に入学して健康診断で初めて視力が悪いことが分かるケースが増えています。手遅れにならないように、幼児期に視力検査を受けましょう。ですが、幼児の検査は時間がかかる、理解力不足のために判定が困難などの理由から、幼稚園や保育園、またはご家庭でも実施されていないことが多いです。そこで視力検査の実施率をあげるために、3歳児でも「短時間に正確に出来る」視力検査を高橋先生が考案されました。それが「たべたのだあれ?」視力検査法です。

ご自宅や幼稚園でも簡単にチェックできる絵本や紙しばいを開発



「たべたのだあれ?」視力検査キット

3歳児でも十分に答えられるように、30cmの距離で一口かじったドーナツを「たべたのだあれ?」と尋ねるクイズ形式の絵本です。遊びながら視力検査の準備ができる「視力検査キット」。まずは絵本で検査に慣れた後、眼前30cmの距離で紙芝居形式の視力検査を行います。子どもも楽しみながら、先生や保護者の方も、短時間に信憑性のある検査を行うことができます。

検査時間は一人平均20秒で簡単にできます。平成27年度経済産業大臣賞を受賞(日本眼科医会と日本小児科医会の推薦)。この検査方法の普及により子ども達の視力を守りたいと、普及活動が活発に行われています。



「たべたのだあれ?」



「さるくん!」

絵本「たべたのだあれ?」のクイズ遊びで「ドーナツのかじられた箇所」を答える練習をします。

幼稚園・保育園の関係者の皆様へ

「たべたのだあれ?」視力検査キットは無料で貸出しております。先生方の努力により、幼児を弱視から救うことができるのです。幼児の視力検査をしてあげてください。キットにつきましては『まみたん編集部 072-270-8810』までお問い合わせください。

小さなお子様をお持ちの保護者の皆様へ

お子様の大切な視力を守るために、3歳になったら視力検査を受けさせてあげてください。心配しなくても、ご自宅で絵本「たべたのだあれ?」(自由企画出版)でクイズ遊びをしておく楽しく視力検査を受けられます。

